

碩菴学園だより

RAKUNO GAKUEN



Green Stage

デントコーンの種まき

Vol. 95
2002.6.15

聖句

「世には友らしい見せかけの友がある、しかし兄弟よりもたのもしい友もある」

Some friendships do not last, but some friends are more loyal than brothers.

(旧約聖書 箴言18章24節)

学長のあいさつ

酪農学園大学では今…

—BSE研究・普及と
少子化対策に本腰—■ 年度末には結果が
明確に…!

学長就任2年目に入りました。学内外のご協力・ご支援を得て、何とか初年度は乗り切ることができましたが、根本的課題の幾つかは本年度に持ち越されていて、良くも悪くも今年度末には2年分の結果の良否が明らかになることでしょう。本年は昨年からの基本的方向に大きな修正を加えず実行していきたいと考えています。

■ 生産現場へ貢献できる
BSE研究・普及

近年酪農・畜産・食品・環境の分野における問題が続発し、本学の姿勢や役割について従来以上の厳しさが求められています。このような状況を、本学の存在意義を高める追い風として受け止め、逃げ腰にならず問題の解決に積極的にかかわっていききたいと考えています。

本年度の新規事業として、BSEに関する特別共同研究を実施するものもそうした方向性の一端を示すものです。この問題の解決は一大学の果たし得るものではなく、国をはじめとして酪農・畜産に関する組織の協力のもとに問

題に取り組む必要がありますが、本学の最も得意とする分野でもあり、それなりの重い責任もあります。

本学としては、特に生産現場への貢献を強く意識して事業を進めています。この研究は3学部・短大からスタッフが参加する全学横断的組織によって進められますが、具体的には、学術誌等にその成果を発表するだけでなく、研究の中間成果を基にしたテキストの作成や酪農地帯における現地講演等を含む実践的事業として計画しています。

■ 緊急課題は
「学生確保対策」

現在、2008年度まで続く18歳人口の減少傾向の真っ只中があります。それにもかかわらず短大の改編や公立大学の増設が続くという矛盾した状況の中でますます大学間の競争は激化し、特に私立大学は軒並み学生確保の困難に遭遇しています。

大学の優劣を決めるのは教育サービスの内容や質であることは言うまでもありませんが、今や「モノが良ければ売れる」時代でないことは社会常識でもあり、需給バランスが大きく崩れている大学においても当てはまります。

酪農学園大学 学長
大谷 俊昭

直接的な学生確保対策が緊急の課題です。

昨年、学費の一部値下げ、本学卒業の道内高校教員との連携強化を実施していますが、本年は連携の継続に加え経済的支援、組織改編の検討、スタッフ強化などを実施します。どのような対策を採るにしても、危機を突破するには卒業生を始めとする大学関係者のお力を頼りにしていますので、これまで以上のご理解・ご支援をお願いいたします。

■ 先進的な新講義棟の
建設へ

今年度の施設計画の目玉は新講義棟です。

第1の特徴は学生の体格や机上の作業を考慮して机の規格を大きくし、ゆとりをもって受講できるようにしたこと。第2の特徴はスクリーン表示を学生の卓上ディスプレイへ転送し、明るい照明の下で明瞭な画像を見ることができるようにしたことです。

さらに、救護室や冷房設備、バリアフリー対策としてのエレベータの設置など他大学の施設に見劣りしない先進的な内容を盛り込んでいます。

キャンパスレポート

1,020人の新入生 が本学の“狭き門”を くぐる

酪農学園大学・大学院および酪農学園大学短期大学部の2002年度の入学式が4月8日、本学の体育館を会場に盛大に行われ、合計1,020人の新入生が本学の伝統的な施設である“狭き門”から“希望の塔”へと続く道にしっかりと歩みを刻みました。

入学式の会場となった体育館は、朝早くから新入生や父母、教職員でびっちらと埋まり、式は午前10時から本学のキリスト教精神にのっとり、高橋一宗教主任の司式によって礼拝形式で行われました。

オルガンによる荘厳な前奏と讃美歌の合唱で始まった入学式は、高橋宗教主任が聖書を朗読、祈祷の後、大谷俊昭学長の式辞へと続きました。

この中で、大谷学長は「どのような作物を選ぶにしても、土壌の準備ができていなければ良い作物は育たない」と、まず勉学に対する姿勢を確立することを新入生に呼びかけました。また、本学の建学の精神である「三愛精神」と「健土健民」を明示し、「(三愛精神の)三つの愛に共通することは、感謝の気持ちである」と指摘、さらに健土健民については「健康な土は健

康な草を育て、健康な草は健康な動物を育て、健康な動植物は健康な食品を作り、健康な食品は健康な人を作る。その具体的な姿は酪農という循環的農法の中に表現されている」と力強く語りました。

一方、安宅一夫短大部学長は「酪農学園大学短期大学部は酪農学園大学と一体であり、同じキャンパス内にインテリジェント牛舎、バイオガスプラントなど、世界に誇る最先端の施設・設備が用意されている。皆さんには、これらを利用して思う存分勉強してほしい」と述べるとともに「世界人類の繁栄のためには、科学技術の発展が大きく貢献している。しかし、科学技術は道具であり、それを生かすのは人間自身だ。本学では、キリスト教に基づく“三愛精神”によって人間教育を行っている」と強調しました。

最後に、あいさつに立った平尾和義理事長は、酪農学園の歴史をひもときながら「皆さんは今日から本学の新しい歴史に責任を持ち、発展の歴史を書き加える重要な構成員となったのである。これからの大学生活を通じ、本学とその建学の精神、歴史を知る努力をしてほしい」と創立者の建学の心に学び、継承することを新入生に期待していました。

アルバータ州立大学の フレーザー学長が 本学を訪問



カナダ・アルバータ州立大学のロデリック D. フレーザー学長ら同大学関係者5人が4月16日、本学を表敬訪問し、平尾和義理事長、大谷俊昭学長、安宅一夫短大部学長らと両大学間の交流活動の推進について具体的な会談を行いました。

カナダ・アルバータ州は北海道にとって初めての姉妹州であり、現在、学術、文化、スポーツなど幅広い分野で活発な交流が行われています。特に本学とアルバータ州立大学との間では1985年に学術交流協定を締結。その後、両大学の教員間で積極的な交流活動を行ってききましたが、ここ数年はその活動も停滞ぎみでした。

席上、あいさつに立った平尾理事長は「現在、日本では教育はもとより政治、経済も大きな変動期を迎えている。こうした状況ではあるが、今後の貴大学との交流活動の活性化に期待したい」と交流推進に強い意欲を示しました。一方、フレーザー学長も「アルバータ州と日本の交流のかけ橋を、より強固なものにしていきたい」と本学との交流活動の再開に大きな期待を寄せていました。

谷山弘行助教授が 日本獣医学会賞 を受賞

獣医学部獣医学科(獣医病理学)の谷山弘行助教授が、わが国獣医界でも



とも権威のある平成14年度日本獣医学会賞を受賞しました。本学では今回が3人目の栄誉になります。

受賞理由は、「産業動物における遅発性感染症の発見とその病態解明」で、感染から発症するまでに数年の歳月を必要とする疾患の発見とその病態解明に関する国際的研究の成果が評価されました。その独創的研究は、今後増加すると考えられている遅発性感染症の先駆的研究であるとともに、臨床現場に直接フィードバックできるものと高い評価を受けています。

研究の対象となった遅発性感染症は、ヒツジのスクレピー(プリオン病)、ウシウイルス性下痢粘膜炎(BVD-MD)ウイルス感染によるウシのインシュリン依存性糖尿病(IDDM)およびウマとウシにおけるボルナ病で、いずれもわが国での発生を初めて発見し、それらの病態および疾患の発生メカニズムに関して研究を重ねてこられました。なかでもプリオン病やボルナ病は、人獣共通感染症としてヒト医学の観点からも重要性を増しつつある疾患であることから、今後の研究が期待されます。



学園トピックス



大学・大学院 短期大学部

食品流通、短酪の 学生がヤンマー懸賞 論文で入賞

第12回 ヤンマー学生懸賞論文・作文の表彰式が1月25日、東京で行われ、本学・食品流通学科4年の高橋毅さんグループの「通りコンテナを利用した低コスト環境保全型物流」が優秀賞、また短大・酪農学科2年の毛利飛鳥さんの「親友が教えてくれたこと」が作文銀賞に選ばれました。この賞は、ヤンマー農機が農業を目指す若者に農業と農村の未来について大いに議論してもらうために創設したも



ので、本学からも毎年多くの学生が参加しています。

優秀賞を受賞したグループ代表の高橋さんは「うれしいです。お世話になった農家や関係者の皆さんのおかげです」と謙そんしながら、「今回の入賞で自信ができました。つらいこともあったけど、それを乗り越えての喜びも感じられました。通りコンテナという題材が評価されたのだと思います」と満面の笑顔で受賞の喜びを表現しました。

一方、作文銀賞を受賞した毛利さんは「応募したことを忘れていたところに“入賞した”と聞いて、驚くと同時に喜びがわいてきました。講義で農業のさまざまな

ことを学んでいます、文章という形に表すことで自分の考えを整理するきっかけにもなりました」と勉強の成果を強調し、「多くの乳牛を飼養する酪農の仕事は、家畜を商売道具として見てしまいがちです。家畜にも心があることを忘れないでほしいですね」と、女性らしい視点から家畜福祉の大切さを呼びかけていました。

地域環境4年の 高松さんが松浦武四郎 大賞に輝く

地域環境学科4年の高松紘子さんが今年1月、日本聞き書き学会主催の第2回松浦武四郎大賞に輝きました。同学会は「聞き書き」で庶民の歴史を発掘し、後世に伝えていくことを目的に一昨年に発足したもので、アイヌ民族から聞き書きした「蝦夷

年代記」で知られる地理学者の松浦武四郎にちなんで創設された賞です。

高松さんは、祖父の日記を基に祖父の妹に話を聞き、その半生を描いた「百合子の半生」という作品を約半年かけて書き上げ、審査員からその鋭い洞察力が高い評価を受けました。

高松さんは「驚いたの一言です。しばらく実感がわきませんでしたね。普通の人の人生を、普通に書いたのが良かったのかもしれない」と今回の偉業を自己分析し「大叔母の話をテープに取り、それを文章に起こす地道な作業でした。でも、聞いた



とわの森 三愛高等学校

2002年度順調に スタート!

昨年統合10周年を迎えたとわの森三愛高等学校は酪農経営科の実験実習棟やメディアセンターが完成し、図書館棟が新築されました。これによって、長年

の夢であった三科が同一校舎で授業ができるようになりました。また、2003年から始まる新教育課程、情報の設備も整えられました。

2002年度の入学式は4月9日、424名の新入生を迎えて行われ、村山昭二校長の式辞、平尾和義理事長、島田泰美PTA会長によるお祝いの言葉、新入生代表の八倉巻良介君の力強い誓いの言葉に参列した多数の父母も感激の面持ちでした。

男女共学になって2年目を迎えた酪農経営科には7名の女子が入学し、またクラブ活動を目的に各地から本校に多くの新入生が入学し、2002年度は順調にスタートしました。



ソフトボール部 全国選抜大会

「選抜大会に出場して」

3年8組 五十嵐あゆみ

今年も念願の選抜大会に出場することができました。私たちは大会一週間前に本州へ乗り込み、久々の土の感触に思い浸る暇もなく、内野の細かい動きや、より試合に近い実践練習を多く積み、その中で少しずつ感覚を取り戻していきました。

そして大会当日。一回戦は佐賀県代表の佐賀東高校。試合開始直前に雨が降り、決して良いコンディションではありませんでしたが丁寧な守り、チャンスを生かして1対0で勝ちました。

2回戦は滋賀県代表の滋賀女子高校。またも雨の影響で試合予定時刻が大幅に遅れ、

一度切れてしまった集中力を立て直すことができず、心の弱さから単純ミスが続き、先制したものの3対1と逆転負け。2回戦敗退という結果に終わりました。

今大会では、自分たちの集中力のなさ、心の弱さをひどく痛感させられました。

夏に向けて、技術はもちろんのこと精神面を強くしていきたいです。そして、周りからたくさんのお支えや協力をいただき、その感謝の気持ちを忘れず期待に応えられるよう、日々向上心を持ち続け、インターハイでは結果を残したいと思っています。



た話が面白かったことや、聞き始めたからには作品としてまとめなければ…という強い気持ちで頑張りました」と、聞き書きという手法の苦労を語ります。

さらに「自分が成長しなければ、作品のレベルは上がりません。そういう意味では毎日、自分自身も成長していったのだと思います」と大賞受賞で培った自信を胸に、次回作についても「プレッシャーは何も感じませんよ。次回も最終選考に残れるような作品を作りたいですね」と新たな目標に向けて声を弾ませていました。

獣医学部卒業生が はなし家として デビュー

獣医師の免許を持った異色な「はなし家」が誕生しました。本学獣医学部を平成6年3月に卒



業した小川祐之介さん（芸名＝林家卯三郎さん・32歳）で、3月9日に江別市の「ドラマシアターども」でプロのはなし家として道内初公演を行いました。

小川さんは岐阜県出身で、大学時代には本学の落語研究会で「牛酪亭美濃虎」の名前で活躍。卒業後は岡山県家畜保健衛生所に就職し、獣医師としてその手腕を発揮してきました。この間も岡山市内を中心に趣味で落語を続けてきましたが、「はなし家になりたい」という学生時代からの夢をあきらめ切れず、平成11年に同保健衛生所を退職。大阪の林

家染丸一門に弟子入りし、昨年12月31日に内弟子修行を終えて独り立ちしたばかりです。

「安定した公務員生活から芸人の世界に飛び込むことに対して不安がなかったわけではありません。もちろん、両親からも周囲の人たちからも大反対されました。でも、舞台上自分1人にスポットライトが当たり、自分1人にお客さんが注目する。そして、静寂な会場にドッと笑い声の歓声が沸くと自分の気持ちも大いに盛り上がります。その時の快感は何物にも変えがたいものがある」とはなし家の魅力について語る小川さんは「落語の粋にとらわれなくて、お客さんが納得できる迫力ある芸としての落語をやっていききたい」と今後、自分が歩むべき道を自問自答するかのよう静かな口調で話していました。

獣医師国家試験 本学の新卒者合格率 は95.9%

2001年度（第53回）獣医師国家試験の結果が3月下旬に発表されました。

今年の結果について、加藤清雄獣医学部長は「今年は獣医学部になってからの1期生122名（24名は酪農部獣医学科）が受験、121名が合格し幸先のよいスタートを切りました。これからも全員合格を目指して努力していきたい」と話していました。

2001年度 獣医師国家試験合格状況

	受験者数	合格者数	合格率	
本学	新卒者	146	140	95.9%
	既卒者	27	19	70.4%
	計	173	159	91.9%
全国	新卒者	1,073	1,009	94.0%
	既卒者	219	114	52.1%
	計	1,292	1,123	86.9%

ソルトレークオリ ンピックを経験して

第7期卒業 飯田 蘭

私はこの2月にアメリカで行われた冬季オリンピックに出場しました。オリンピックは幼いころからの夢で、私も応援してくれていた人も本当に喜んでくれたと思います。

9歳からスノーボードを始め、当時は環境も整っておらず、滑れるゲレンデを見つけるのに必死でした。またスノーボードと平行してソフトテニスもやっていて、高校3年間はスノーボード・ソフトテニス・勉強をこなすのに苦勞し、何度も挫折しました。けれど今は、あのつらい3年間を過ごしたことで自分に自信を持つことができるようになりました。

高校3年の冬、幸運なことに

私は長野オリンピックで前走をすることになり、一足早くオリンピックを経験することができました。その翌年からソルトレークに向けW-CUPに本格的に参戦し始めました。最初の2年間は全く成績も出ず、出費ばかり増えていく日々が続きました。やっと出場できる位置につき、オリンピックの切符を手に入れた12月21日を昨日のことに覚えています。決まっからは本当にうれしくて素直に喜んでいましたが、頭の片隅では出場することにも意味があるけれどやはり結果を残したいという思いがありました。

大会当日、あの大観衆の中で自分の練習してきたことを発揮できたのは今振り返ってみると驚くばかりですが、私の中ではやっと自分の滑りを出しきることができたという思いのほうが

強かったです。それが偶然にもオリンピックであったということ、その会場に母親・兄がいたことがうれしかったです。両親からは本当にたくさんのサポートをしてもらい感謝の気持ちでいっぱいです。これからも支えになってくれている人たちの気持ちを忘れずに、一生懸命世界で活躍できるように頑張ります。



英語科の生徒募集 停止と今後の国際 理解教育について

三愛女子高等学校時代の1984年4月に英語科が開設されて以

来、この間、多くの卒業生を社会に送り出してきました。

しかし、近年、普通科志向が強いことから、入学者が減少する傾向になっています。

そのため、特進コースの間口を増やし、特進コースの中に国際理解教育を位置付け、希望する生徒は多くの英語教科を選択できるようにしました。海外への語学研修は希望者による参加になりますが、国際交流や留学生の受け入れ等は継承されます。

英語科の生徒募集については、2003年度から停止され、3年後に英語科を廃止することになります。まことに残念なことでありますが、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

校長 村山 昭二

未来への扉

卒業生☆思い出と抱負

人々の健康管理を
お手伝い



太田ひろ美さん

札幌市出身
A&Tコーポレーション勤務
2002年3月 地域環境学科卒業

今、日本ではゴミ問題が大きな社会問題となっています。私たちの身近な問題にもかかわらず、その本質的な部分を知る人は意外に少ないのが現状です。その実態について深く学びたい…と、私は酪農学園大学環境システム学部に入學しました。

大学では研究室やサークルを通して、廃棄物処理の問題について精いっぱい取り組んできました。2年次には地域実習で江別清掃事務所のゴミ回収作業を体験、3年次には江別市主催のエコフェスタにパネル出展、またサークルでは琵琶湖の水質調査などにも出かけました。

就職活動では「人との出会いを楽しもう」と考え、多業種の企業をエントリーしました。

そんな中、ご縁があったのが横浜に本社を置く「A&Tコーポレーション」です。同社は、臨床検査の試薬開発とルートの製造・販売等を行う会社です。例えば体の不調を訴える人は、健康診断の結果を早く知りたいものです。このルートという機械は血液検査の結果が24時間以内で分かり、医者はすぐに治療に当たれます。まだ大きな病院にしか普及していませんが、こうした検査機械や試薬の開発を通して、人々の健康管理を側面からお手伝いできれば…と思っています。

(2月27日・談)

卒業生☆思い出と抱負

農家の要望に応じて
いきたい



石原 隼さん

福島県出身
日本農産工業株式会社勤務
2002年3月 酪農学科卒業

私は高校時代から馬が好きで、北海道に強い憧れを持っていました。酪農学園大学に入學したのも、北海道や馬への憧れからだっただけかもしれません。

大学時代は勉強も遊びも楽しく、本当に有意義な4年間でした。特に家畜とふれ合う酪農実習は勉強になり、社会でも大いに役に立つものと思います。また、北光寮での寮生活はハチャメチャだったけど、自分の人間的な幅を広げてくれました。

大学生活が楽しかっただけに、仕事もその延長線上で考え、畜産関係の企業を希望していました。今年4月から入社する「日本農産工業」は国内の民間飼料メーカーでは最大手で、家畜用飼料の製造・販売をはじめ、最近ではバイオ関連事業にも着手しています。飼料メーカーは成熟産業と言われますが、職場での新しい仲間と協力しながら、生産現場に積極的に足を運び、農家の要求に応える活動を行っていききたいと思っています。

後輩の皆さん、自分の可能性は計り知れません。就職活動を通して、自分に合った企業や業種、職種が発見できるものです。まずは、行動することが大切です。根気よく就職活動を続け、自分が希望する企業から内定通知を手にとれるよう頑張ってください。

(2月25日・談)

新入生☆未来への希望

獣医師として協力隊に
参加したい



橋 翔二さん

東京都出身
都立新宿高校卒業
獣医学部入学

僕は中学生のころから、青年海外協力隊の活動に興味を持っていました。そこで、協力隊についていろいろと調べてみたら、「大動物臨床に精通しており、畜産分野で活躍できる獣医師が不足している」ということを知りました。「獣医師」という形で「ぜひ、青年海外協力隊に参加したい」と思い、酪農学園大学・獣医学部に入學しました。

特に酪農学園大学は、実験・実習の時間が多く、実際に生産現場で働いた経験を持つ先生たちが多くという評判で、そこに大きな魅力を感じていました。この大学で、人間が動植物を利用して生きていくことの大切さや意味を正しく理解し、社会に貢献できる獣医師を目指して知識とハートを磨いていきたいと思っています。

ところで、僕は大学入学前にネパールの大学の獣医学部で、牛などの検診実習に参加する機会を得ました。同国では獣医師が不足しているため、学生は意欲的に実験・実習に取り組んでいました。その姿に胸を打たれ、「自分も一生懸命、頑張らなければ…」と勇気づけられました。

将来は「獣医師として青年海外協力隊に参加する」ことが目標ですが、その延長線上にさらなる大きな夢を追い求めて努力していききたいと思っています。

(4月22日・談)

新入生☆未来への希望

世界規模で
活躍したい



小笠原 峻さん

江別市出身
とわの森三愛高校卒業
食品科学科 健康栄養学専攻入学

僕は高校時代、野球部に所属しており、毎日のハードな練習に耐えられるように体調管理には日ごろから気を配っていました。それが「栄養」という分野への興味に変わり、食品科学科健康栄養学専攻への入学を決めました。人と接することが大好きなので、将来は「人の役に立つ仕事がしたい」、また「自分の興味のある仕事ならばやっていける」と思い「管理栄養士」の道を選んだのです。将来は日本にこだわらず、世界規模で活躍したいと思っています。

人にはそれぞれ違う考え方や価値観があります。それをうまく採り入れて自分を高め、成長していきたいと思っています。一方、自分を表に出すにも人とのかわりの場が必要で、多くの人と意見を交わすことで信頼関係が生まれると思います。もちろん、自分の夢を実現するためにも、多くの人の支えが必要です。

これからの4年間、得られるだけの知識をすべて得ていきたいと思っています。自分の考えや可能性を広げ、いろいろなことに好奇心を持ち、仲間たちと共に楽しい大学生活を送りたいと思っています。「どんなことでも、やってみなければ分からない!」という気持ちで、何事にも全力でチャレンジしていきたいですね。

(4月23日・談)

同窓会だより

同窓会連合会の理事、評議員、幹事会



酪農学園同窓会連合会の理事、評議員、幹事会による2002年度の総会と学習交流会が5月27日、新札幌シェラトンホテルで開催されました。高橋節郎同窓会連合会長のあいさつ、引き続き議案の審議に入り、議案第1、第2号の事業と決算、予算関係を承認し、3号議案の会則の一部改訂は附帯事項の取り扱いとなりました。4号議案のその他の事項として、学園70周年記念事業に対する同窓会の対応と、法人化の問題について説明を行うなど、原案通り承認されました。

続いての意見交換交流会でも忌憚のない懇談を行い予定通り終了致しました。

関東1都6県合同同窓会総会



総会と学習会が2月2日、東京都において開催され、高橋会長、湯浅亮先生(獣医学科)が出席致しました。会議は通常の事業と予算、決算関係を審議採決終了後、役員の変更を行い、八重樫鉄男会長、戸水雅智事務局長が退任し、奥野誠(大学酪農1期)が新会長に、佐々木六郎(短大酪農11期)が新事務局長に選出されました。

終了後高橋会長および湯浅先

生より夫々、学園と同窓会の事業活動等についてあいさつの後学習会と意見交流交換が行われました。

青森県支部同窓会と学習会



総会と学習会が2月8日、青森市において開催され、高橋会長と仙北富志和先生が出席致しました。総会では高橋会長および県畜産課丸井幸悦畜産指導監の来賓あいさつ、続いて講師として仙北先生より「地域農政の問題について」の講座学習会が行われました。

酪農学科酪進会同窓会

同学科酪進会同窓会における定例会として、家畜管理学関係の研究報告と学習会が2月9日札幌市において開催され、干場信司、森田茂両先生が出席し研修会が行われました。

獣医学科支部同窓会総会

広島県支部の同窓会総会・学習会が2月9日、広島市において開催され、本学より小岩政照先生が出席しました。また、2月15日の釧路支部同窓会は釧路市において、加藤清雄先生が出席し同様の総会と学習会が行われました。

山形県支部同窓会



同支部同窓会の総会・学習会が3月9日、上山市において行われ、本学獣医学科竹花一成先生と事務局の木村が出席しました。

とわの森三愛高校同窓会

同校同窓生1期から10期卒業を対象とした、同窓会総会・学習交流会が3月16日、新札幌アークシティホテルにおいて、村山昭二校長外現旧教職員、高橋会長、中井保博機農会長、山崎恵子三愛会長、外事務局関係者が出席し盛會裡に終了致しました。

この度、役員改選が行われ新役員は会長浅野政輝(経営科1期)、副会長神田(経営科1期)、栗原(英語科1期)、事務局長桂川(普通科1期)が選出されました。



短期大学部同窓会総会

代表委員、幹事による総会と学習会が5月10日、札幌市雪印パーラーにおいて、安宅一夫短期大学部学長を来賓講師に開催致しました。総会関連関係会議終了後安宅学長のあいさつと全体の学習会を行うなど有意義に交流を交わし終了致しました。

大学同窓会 校友会同窓会

各学科同窓会役員による通常総会と議案等の討議が5月25日、野幌町「あおい」において行われ、今年度の生涯教育講座の事業実施等についての検討など、積極的に建設的な意見討議を交わし有意義に終了致しました。

これから開催される同窓会と事業

とわの森三愛高校学校祭・同窓会バザーのお知らせ

7月11日(木)より13日(土)に開催致しますが13日の土曜日は、一般公開日として同窓会から例年通りバザーを出店致しますので、ぜひご来店ください。なお、卒業生でお手伝いいただける方がおられましたら、よろしくお願い致します。

とわの森三愛高校・関東地区同窓会開催のお知らせ

機農高等学校と三愛女子高等学校が統合して、11年が経過しております。昨年は、思いを一つにして、10周年記念式典を礼拝堂で行いました。

多くの卒業生が全国でご活躍されておりますが、関東地区(1都6県)にも多くの卒業生が活躍されていると思います。学校として、関東地区同窓会を下記のように開催し、学校の近況報告や懐かしい話題等交流したいと思っておりますので、ぜひ、ご出席ください。

開催日時：2002年7月31日(水) 午後4時
会場：アルカディア市ヶ谷 4階 飛鳥
東京都千代田区九段北4-2-25 / TEL : 03-3261-9921
出席教師：村山昭二(校長)、山谷繁雄、石川和哉
酪農学園東京事務所：TEL : 03-3508-8951(須田)
とわの森三愛高等学校：TEL : 011-386-3111(有好)

同窓会連合会ホームページ

同窓会連合会のホームページを同窓会活動にご活用ください。
OHPアドレス：<http://www.rakuno.ac.jp/dosokai/iriguchi.htm>

住所変更の場合には連絡をお願いします

住所変更された同窓生の方は、下記のいずれかの方法でご連絡ください。
○TEL : 011-386-1196 / FAX : 011-386-5987
○Eメール : rg-dosok@rakuno.ac.jp
○手紙・ハガキ : 〒069-8501 江別市文京台緑町582 酪農学園同窓会事務局

白樺並木

酪農育英会だより

◆◆ 2001年度事業報告 ◆◆

▼奨学生貸与

大学院生 1名 60万円
 大学生 45名 1,947万円
 高校生 5名 120万円
 計 51名 2,127万円

※短大部は応募なし。

▼私費留學生奨学金給与

アジアからの私費留學生 14名
 海外で学ぶ邦人私費留學生 1名
 計 15名 855万円

▼研究奨励金

寺岡宏樹(大学講師) 30万円
 日本酪農青年研究連盟 10万円

2002年度事業計画

▼奨学金貸与(1名につき)

大学院生 (月額) 5万円
 大学・短大生 (月額) 4万円
 ※1999年度以前入学者

3万5千円
 高校生 (月額) 2万円
 総額 52名 2,190万円

▼私費留學生奨学金給与

(1名につき月額 5万円)
 総額 13名 780万円

※今後の奨学金給与について
 給与受給希望者の増加に伴ない育英会の資金運用など財政が年々厳しくなっており、奨

人 事	
2002年3月31日発令 [退職・退任] 酪農学園大学 ◆ 定年退職 山本 博 信(教授)	2002年4月1日発令 [新規採用] 酪農学園大学 ◆ 新規採用 食品科学 眞 船 直 樹(教授) 酪 農 佐 藤 和 夫(講師) 農業経済 小 糸 健 太 郎(講師) 食品科学 菊 地 和 美(講師) 食品流通 三 谷 光 照(講師)
◆ 嘱託退任 角 田 順 三(教授) 牧 野 輝 男(教授) 坂 本 与 市(教授) 嘎 尔 迪(教授) B.J.Sanewski(助教授) 曾 田 春 水(助手) 山 口 令 子(調理員)	◆ 嘱託新任 食品流通 山 本 博 信(教授) 農業経済 長 谷 川 豊(教授) 経営環境 佐 野 晴 行(教授) 食品流通 本 多 芳 彦(教授) 酪 農 周 仲 光(教授) 食品科学 B.Burns(助教授) 食品科学 植 村 な ぶ 子(助手) 食品科学 阿 久 津 敦 子(助手) 食品科学 中 橋 愛(助手) 学生部 小 島 友 子(調理員)
酪農学園大学短期大学部 ◆ 定年退職 水 野 直 治(教授)	酪農学園大学短期大学部 ◆ 新規採用 酪 農 我 妻 尚 広(助教授)
とわの森三愛高等学校 ◆ 定年退職 山 谷 繁 男(教 諭) 天 谷 正 通(教 諭) 千 葉 昌 子(教 諭) 小 松 純 子(教 諭)	とわの森三愛高等学校 ◆ 新規採用 守 田 純 子(教 諭) 蟹 田 真 礼(教 諭) 新 井 昭 雄(教 諭) 福 田 憲 太 郎(教 諭) 横 川 容 子(教 諭)
◆ 依願退職 伊 藤 多 香 子(教 諭) 北 所 康 一(教 諭)	
学園事務局 ◆ 定年退職 志 摩 親 壽(主 事)	
	◆ 嘱託新任 山 谷 繁 男(教 諭) 天 谷 正 通(教 諭) 千 葉 昌 子(教 諭)
	[昇 格] 酪農学園大学 教 授 小 阪 進 一 教 授 加 藤 敏 文 教 授 篠 崎 志 朗 助 教 授 植 田 弘 美 助 教 授 楠 岡 宏 樹 助 教 授 山 下 和 賢 講 師 泉 一
	酪農学園大学短期大学部 教 授 菊 田 治 典 教 授 寺 脇 良 悟
	[所属変更] 酪農学園大学 食品科学 高 橋 セツ子 地域環境 千 田 忠
	2002年4月9日発令 [退職] 酪農学園大学短期大学部 海 野 芳 太 郎(助教授) 逝去 2002年4月10日発令 [新規採用] 酪農学園大学短期大学部 ◆ 嘱託新任 酪 農 水 野 直 治(教 授) 以上(2002.5.14)

学金給与の内容(対象者、人数、金額)の見直しが来年度に向けて検討されています。

▼研究奨励金 個人 30万円
 団体 10万円

●奨学金返還についてのご連絡
 約定返還期日が近づいてきましたので奨学金返還明細書と返還払込書をお届けします。

返還金は直ちに次の奨学金として回転運用されますので忘れ

ずにお振り込みください。
 なお、住所変更、改姓等が生じた場合には速やかに届け出をしてください。さまざまな事情で返還が困難になった時は一定期間、返還を猶予することもできますので、ご連絡ください。電話でも、お受けします。

財団法人 酪農育英会
 TEL011-386-1211

酪農学園大学植物図鑑
「酪農学園の自然改訂版」を無料頒布

希望者の方は官製はがきに住所、氏名、電話番号および「酪農学園の自然改訂版を希望」と明記の上、下記までお申し込みください。

〒069-8501
 江別市文京台緑町582番地
 酪農学園大学入試部入試課
 「酪農学園の自然」係

◆◆ 父母懇談会の開催について ◆◆

一在學生で父母の皆様へ一

酪農学園大学・酪農学園大学短期大学部は、本学の様子をお知らせし、ご理解をいただくために、懇親会を兼ねた父母懇談会を右記の通り開催致します。

対象年次に関わらず希望があれば参加できますので、希望者の方は6月28日までに学務部学事課 渡辺(011-388-4130)までご連絡ください。

対 象	大 学	2年次	酪農学部・環境システム学部
		3年次	
開 催 地	東 京	2、4、5年次	
		酪農学科	
開 催 地	東 京	8月24日(土) 11:30~14:30 (受付11:00~)	都ホテル東京 東京都港区白金台1-1-50
	大 阪	8月25日(日) 11:30~14:30 (受付11:00~)	都ホテル大阪 大阪市天王寺区上本町6-1-55
	本 学	9月1日(日) 11:30~14:30 (受付11:00~)	酪農学園大学・酪農学園大学短期大学部 北海道江別市文京台緑町582番地
※インテリジェント牛舎見学(事前申込者) 受付9:30 10:00から見学開始			

訃 報

本学園に多大なご尽力を賜りました海野芳太郎先生(53)が4月9日、ご逝去されました。学園役員一同、御家族の上にお喜びました。新しいスズランの品種を作るべく日夜努力され、またコンピュータにも造詣が深く、酪農経営診断プログラムを同僚と共同で開発するなどされておりました。このように幅広く活躍されておりますことから、他学科の学生も常に先生を取り囲むような状況でした。ここに、改めて衷心より深く感謝申し上げます。

聖句解説 高橋 一 (酪農学園大学・短期大学部宗教主任)

日本語を学び始めたばかりの外国人からこんなエピソードを聞きました。その人は「友」という漢字を習っていましたが、上手に曲線を描けず苦労していました。どうしても「ナ」の右に「人」のような文字を置いてしまうのです。不意に彼はこう言いました。「高橋さん、「友」という字は人が十字架を担ぐ姿に似ていますね」。一人では担いきれない重荷を負う友がいる。その友の十字架(重荷)をすすんで担う人。それが「真実の友」ではないか、と私は深く教えられました。

酪農学園だより
RAKUNO GAKUEN Vol.95
 発行：学校法人 酪農学園 2002.6.15
 酪農学園大学・大学院/酪農学園大学短期大学部
 とわの森三愛高等学校
 編集：学園広報室
 〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582
 TEL(011)388-4158 FAX(011)388-4157
 HPアドレス：http://www.rakuno.ac.jp/
 Email:koho@rakuno.ac.jp